

E-12 主婦労働とすまい—その2— 職業による炊事作業と台所とのかわり
県立海田高 O 芦田迪子 奈良女大家政 北村君

目的 主婦の職業による生活時間・生活行爲の相違は 住いに対する要求にも当然異つた形であられるのではないかと予想される。これからの住いのあり方を探る一環として、先に、主婦の職業により、生活構造に大まな変革をもたらす様相を明らかにした。今回は、職業労働時間の増加に伴ない、まず、そのしわよせを受ける家事労働の中で、時間の長い炊事作業を取りあげ台所とのかわりの中で分析、検討を試みたので報告する。

方法 広島県佐伯郡能美島に住む主婦で高校生をもつ家庭約700戸中、300名の主婦にアンケート用紙を配布し、5日後に回収した。回収率は89.8%である。調査時期は昭和48年5月中旬～6月初旬である。調査項目は、①家庭概況、②主婦の生活時間調査、③炊事に関する調査、④台所設備、⑤台所改善要求、である。

結果、主婦の職業を「無職」、「内職」、「勤労」、「自営」の4つに区分して職業による炊事作業を分析検討した結果、①time studyによる調査と同様職業の有無に関係なく、「無職」、「内職」、「自営」の主婦の炊事時間は、ほぼ一定である。勤労の主婦は炊事時間が、他の職業の主婦に比し最も短かく約30分の差が見られた。②炊事時間と、料理の手間、手伝い、設備、台所のタイプ、との間には関連性がみられるが、家族人数、主婦の年齢による著しい影響はみられなかった。③最も能率的に炊事作業を運営しているのは勤労の主婦である。④勤労の主婦は台所の改善要求も他に比し、能率化への要求が強い。